

私とWARD

昨年から参加しました田畑智子です。WARDの活動と私が大学院で取り組んでいる教育学の研究が近いので、研究トピック「エイジェンシー」を紹介...

WARD理事 田畑智子

第29回WARD総会の概要

2020年は新型コロナウイルスの流行により当初5月に予定していた総会を9月に延期することとし、会場の手配や併せて開催する勉強会など準備を進めて参りましたが、感染症の再発の流行により、残念ながらこれを中止することとなりました。

I 2019年度活動報告

- 1. 4月17日 定例会(神田にて)
2. 5月9日 ユネスコ訪問
3. 5月18日 ニュースレター及びアンケートはがき封筒詰め作業(神田)
4. 5月20日 ニュースレター等発送作業
5. 6月12日 打合せ(事務所にて)
6. 6月30日 総会・日本ユネスコ協会連盟の講演(神代植物公園にて)
7. 10月16日 打合せ(事務所にて)
8. 11月9日 定例会(神田にて)
9. 2月2日 緊急定例会(神田にて)
10. 2月8日 Bee com meeting に出席
11. 3月1日 グリーンパード様と共同開催による清掃活動とミーティング(感染症の影響で中止)
12. 3月8日 理事会(渋谷にて)

※会の運営について、ユネスコとの連携について、イベント企画、コロナ対応、ニュースレター作成、HP更新等

II 2020年度活動方針

- 1. WARDの意義を宣伝し、仲間を増やす
2. 未来を奪われている子孫の存在を示し、その権利を主張する
3. 子孫の視点から問題を提起し、解決策を提示する
4. 「時間の物差」(時間軸)を普及し、「縦の平等」を推進する

2020年度活動計画

- 1. ユネスコ協会の賛助会員に認めていただき関連活動を実施する
2. 魅力あるイベントを開催し、会員の交流を深めるとともに新規会員の獲得を図る。
3. 会員各々がWARDの活動として、自らが置かれている状況の中で、子孫の代理人としての役割(子孫の立場で考え行動する)を果たす

III 2019年度会計報告

Table with 5 columns: 収入, 予算, 決算, 備考. Rows include 繰越金, 会費, 寄付金, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 支出, 予算, 決算, 備考. Rows include 会報費, 会議費, 事務所費, 消耗品費, 通信費, 交通費, 印刷費, 宣伝費, 調査費, イベント準備費, 会費, 振込手数料, 繰越金, 合計.

書籍紹介 Book Reviews

蟹江憲史 著「SDGs(持続可能な開発目標)」 中公新書 281ページ 920円

2015年に国連総会で全加盟国が合意し、2030年までにそのような社会を実現することを目指したSDGs(Sustainable Development Goals)について簡潔に紹介されている。

小林 亮 監修「世界を変えるSDGs」

あかね書房 143ページ 5000円

SDGsの17個の目標ごとに、そこに至る背景(何が問題か〜必要な取り組み〜解決のヒントなど)をお話として示し、それにまつわるクイズなどを通して楽しく学べる工夫がされている。

お知らせ

WARD総会のお知らせ

第30回WARD総会を昨年同様下記の通り開催いたします。国際環境教育基金日本事務局の協力を得て神奈川県鎌倉市にて総会を行います。鎌倉の由比ヶ浜海岸はこれまで4年にわたり国際環境教育基金本部(デンマーク)より持続可能な、環境にやさしいビーチとして認定され、毎夏認定の証として、ブルーフラッグをビーチに掲げています。

記

\*日時: 2021年5月30日(日) 13:30~16:30
\*会場: 鎌倉市由比ヶ浜海岸 シードエイジェンシー3階 会議室
鎌倉市由比ヶ浜2-22-11 電話: 0467-61-2525
URL: https://seedagencyinfo.jp
横須賀線 鎌倉駅 徒歩15分
江ノ電 由比ヶ浜駅 徒歩5分

\*プログラム: 13:20 開場
13:30 開会 総会 議事
14:00 講演 国際環境教育基金の活動について 伊藤様
14:30 講演 鎌倉由比ヶ浜の環境活動の取り組み 片山様
15:00 活動 由比ヶ浜海岸での環境保全活動 伊藤様 片山様
16:30 閉会 全員でスローガン唱和のち解散

\*当日の緊急連絡先
事務局連絡先 090-9537-7566
090-9340-2939

\*お願い: 会費一人1000円(学生以下は無料)

会費納入のお願い

正会員の方は1口(2千円)以上、賛助会員の方は1口1万円以上とさせていただきますと存じますので、是非会費納入にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、領収書は振込み時の領収控えで替えさせていただきます。

会費納入方法

- A. 銀行振り込み みずほ銀行・自由が丘支店 普通2286766 加入者名WARD
B. 郵便振替 00100-3-659238 加入者名WARD

WARD 54号(2021年3月1日発行)

発行人 松香光夫 永井伸一 定価150円
編集人 田中國智
WARD事務局 〒152-0003 東京都目黒区碑文谷5-4-21
TEL 03-5721-1992 FAX 03-5721-8383
http://www.ward-ngo.com



WARDは日本ユネスコ協会連盟を賛助します。

最近の会報で、ユネスコ協会の活動が平和と文化を掲げて、WARDの活動と共通点の多いことを紹介してきました。今年の総会は、COVID-19ウイルス禍のため書面開催となりましたが、その前後に、WARDとして(公益社団法人)日本ユネスコ協会連盟に賛助会員として参加したい旨の申し入れをしました。

ご承知のようにユネスコは1945年の国連会議の取り決めに基づいて設立された国際連合教育科学文化機関(UNESCO)の略称です。戦争の惨禍を繰り返さないように国際平和と教育科学文化を含む人類共通の福祉という目的のために活動をしています。

たとえば東京都には約30のユネスコ協会あるいはユネスコクラブがあり、地域を中心にあるいはもう少し広い範囲の会員が、特定の目標を持つなどしてそれぞれの活動をしています。かく言う私(松香)もまちだ・さがみユネスコ協会の会員として、平和の鐘を鳴らしたり、講演会や、アジアの子供達による絵日記展を開催したり、最近では市内の小学校の理解を求めて、ユネスコスクールの認証や、ユネスコ学習の支援活動などを行っています。

賛助会員になったのを機に、より積極的にそのような活動に参加してみたいかがでしょうか。ご自分の活動について、ご紹介をお願いします。

WARD会長 松香光夫



コラム

「核兵器禁止条約の発効」

将来的な核兵器の全廃に向けた初めての国際条約として、1996年に起草され、2017年に国連総会で賛成多数で採択された。発効には50か国の批准が必要とされるが、2020年10月24日にホンジュラスが50か国目の批准を公表したので、この日から90日目の2021年1月22日に発効する。

米中などの核兵器保有国や、米と軍事同盟を結ぶ日豪韓国などは不参加なのが残念である。前文で核兵器の非人道性、全廃の必要性、「核兵器のない世界」の達成、平和利用、教育の重要性などを締結国の認識と記載している。

出典: フリー百科事典「ウィキペディア」

## 海を守り、未来をつくる

海の表情は毎日変わる。風、気温、光、湿度、匂い、砂や水の感触、五感で海を感じるとき、自分が生きていることを実感する。四季によって変化する富士山や江の島の景色も息をのむほど美しい。私は、この美しい湘南の海とともに生きてきた。

私にとって、学生の頃からビーチクリーンは日常の一つだった。サーファーとしてホームポイントの海をきれいにしたいと思うのは当然だったし、小さい頃から海に育ててもらった自分としては、海への感謝という気持ちを表すことができる具体的な行動の一つでもあった。だからビーチクリーンをずっと続けてきたし、続けていけば海岸ごみをなくすことができると信じていた。

しかし、あるとき統計を見て愕然とした。湘南の海岸ごみの総量は年間5,000t。しかもこの数十年間、総量は全く減っていないのだ。20年以上、私は多くのボランティアの仲間とともにビーチクリーンをしてきたが、私たちの活動は無意味だったのか。全身の力が抜けた。

海岸ごみについて調べていくと、海岸ごみの7割は川から流れて来て、その川ごみは街から流れて来るのが分かった。だから、海岸をいくら掃除していても根本的な解決にはならない。「発生源の川や街を含めた地域全体で、行政や企業と協力して取り組まないと解決できない」ということに気付いたのだ。こうした問題意識から私は、海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」の日本初取得を目標に定め、海ゴミ問題の解決を自分のライフワークに決めた。



2012年4月、江の島の海中に潜って海底清掃をする片山理事長

「ブルーフラッグ」とは、デンマークに本部がある国際NGO FEE（国際環境教育基金）による認証制度。①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準があり、これらの基準を満たしたビーチやマリナーはフラッグを掲げることができる。1985年にフランスで誕生し、現在世界50ヶ国、約4,500ヶ所が取得。特にヨーロッパでの認知度は高く、ブルーフラッグを取得した海岸は「きれいで安全で誰もが楽しめる美しいビーチ」として、多くの人々がバカンスに訪れる。

ブルーフラッグ日本初取得の挑戦という「使命」に燃えた私は、2011年5月、仲間とともに湘南ビジョン研究所を立ち上げ、「日本初のブルーフラッグ取得を湘南海岸から目指す」と宣言し、活動を開始。しかし、周りは「湘南の汚い海でブルーフラッグを目指すなんて無理でしょ!」と冷やかされた。

その中で唯一、鎌倉市の由比ガ浜茶亭組合の増田元秀組合長が賛同してくれた。早速、当研究所の仲間とともに、週末になると由比ガ浜に通い、ブルーフラッグ取得に必要な水質調査、安全リスク調査、バリアフリー整備、環境教

育などを進めた。また、ブルーフラッグを紹介するフリーペーパーを作成したり、市内の小中学校や市民団体にブルーフラッグの講演をしたり、できることは何でもやった。

そして、鎌倉市の松尾崇市長が「由比ガ浜で日本初のブルーフラッグを目指す」と記者会見で正式に発表。その後、活動を本格化させ、ついに2016年4月、FEEの国際審査委員会において由比ガ浜がアジア初・日本初のブルーフラッグに認証された。5年越しの活動の成果が実り、これまでの苦労が報われた瞬間だった。

今年で湘南ビジョン研究所を立ち上げて10年目。仲間のメンバーは60人に増えた。ブルーフラッグ取得海岸は全国で4箇所になり、今後さらに全国への展開を目指す。



2016年7月、由比ガ浜海水浴場でブルーフラッグを持つ片山理事長(左)と奥さん

活動をしていると、いろいろな方から「仕事が忙しいのに、よくボランティアで続けられるね」とか「片山さんの原動力は何なの?」と聞かれる。答はいつも同じだ。「海が好きだから」。海が好きだから海を守りたい、と純粋に思う。その想いに理由や理屈はない。

市民活動の一人ひとりの力は限りなく小さいが、その純粋な想いや熱意は伝播すると大きな力になる。私たち湘南ビジョン研究所は、市民の力で海の問題を解決できると信じている。これからも、「海を守り、未来をつくる」のスローガンを胸に、全国のたくさんの仲間とつながって、海の未来について語り合い、一緒に行動し、この素晴らしい日本の里海を守り、次世代に残していきたいと思う。

NPO法人湘南ビジョン研究所 理事長 片山清宏



2019年12月「BLUE FLAG Japanサミットin鎌倉」でパネリストを囲んで集合写真



真夏の片瀬西浜・鶴沼海水浴場(江の島)

## ミツバチの福祉とコロナ

昨年3月、英国で広汎なロックアウトが実施されたとき、英国内ミツバチ資源を守るための養蜂家と政府による「健康なミツバチ計画」を支援するサイトBee Base（ミツバチ基地）に、緊急事態における養蜂家への指針が即座に提示されました。

飼育する動物の世話を、可能な限り従来同様に継続する。飼養のなかで、動物の福祉に関して妥協的な手段を講じてはいけぬ。あなたの蜂場で、良き動物防疫措置を維持継続する。また、あなたがコロナウイルス検査で陽性と判明したとき、感染症状が軽くても、自宅にとどまり自己隔離とし、他の場所を訪れるべきでない。理想的には、別の養蜂家が代理として仕事を肩代わりしてほしい。地域



を維持継続する。また、あなたがコロナウイルス検査で陽性と判明したとき、感染症状が軽くても、自宅にとどまり自己隔離とし、他の場所を訪れるべきでない。理想的には、別の養蜂家が代理として仕事を肩代わりしてほしい。地域

の組織が、この困難な状況において、我々すべてのために、自宅から出られない、蜂群の面倒を見に行けない養蜂家をいかに支援できるか検討するよう要請したいとあり、感銘を受けました。

ミツバチ科学情報サービス 榎本ひとみ



Photo by Christine Balshaw

## コロナ禍における人との繋がり

2020年は、皆様にとってどのような年だったのだろうか。

誰もが東京オリンピックに期待をし、多くの外国人が来日し、経済はプラスに動く、と思ったであろう。しかしながら、突然訪れた感染症『新型コロナ』で日常が大きく変わってしまった。歴史を紐解くとこれまでも天然痘・ペストと目に見えないものとの闘いは、今も継続している。世代によって、コロナに対する価値観が違うためになかなか落ち着かない。若者は、気を付けていても感染する人は感染する、そして他人事のように自分は感染しないと思っているようだ。逆にご年配の方々は、コロナになったらどうしようとかかなりの懸念をし、じっと家に閉じもっている人が多いと聞く。ストレスを抱え、感染を恐れながら毎日過ごす日が来ようとは誰も想像しなかっただろう。ある意味、試練の時代とも言えよう。今までのような社会はもう成り立たないのではと思う。大会社だから安心なのか、公務員だから安定なのかそんな時代は終わった。単にモノを売っている職種の方々は少なからずAIに仕事をとられるだろう。これまでの固定概念にとらわれていると、時代の流れについていくことはできない。

私は、現在旅行代理店に務めている。周知のとおり旅行業界は、かなりのダメージを受けている。人を動かす仕事が無くなり、既に廃業に追い込まれた会社も多い。しかし、私には昨年末、かなりの数の案件があった。それはなぜか。これまでずっと人の繋がりを大事にしてき

たからこそ、困ったときに助けてくれた。これこそが人と人の絆であろう。AIは、コロナ禍の中で何か助けてくれたらどうか。せいぜい正確でもない表面温度を測ったり、飛沫の分析をしただけだろうと思っている。まったく無駄とは言わないが、これまで本当に困ったときに人は支え合って生きてきたと思う。例えば、緊急時に、少し多めに持っているマスクを友達や家族にまわしてくれたり、買い物に行けない人のために何か買ってきてくれたりした方が、皆様の周りにもいたのではないだろうか。



正月に特養にて生活する祖母を訪ねて

そう考えると、人と人との繋がりこそこの時代には非常に重要だと思う。コロナ禍のなかで競争する社会ではなく、共生する社会へと変化していったらいい。そして、コロナという未曾有の感染症にみんなで打ち勝っていいのではないかと。たとえコロナ禍であっても、人の思いや繋がりは不滅である。最後にご年配の方々に特に言いたいのは、テレビ電話やズームを利用し、できるだけ誰かと喋ったり、楽しいことを考えたりしてほしい。こんな時だからこそ、笑って毎日を過ごそう。人とのつながりを大切にしよう。私も施設にて生活する祖母に新年のあいさつに行き、楽しい時間を過ごした。

WARD理事 田中國之